

## 2018年度ユニーク卒論

商 学部

担当教員名	藤沢 武史
論文執筆者名	前田 華那、山本 茜、東 真理奈
論文の題 (テーマ)	悪意の根源
簡単な内容 (概要)	<p>「なぜ人は悪口を言うのか」と自問自答し、その原因を、人々の心の中に潜む「悪意」に求めたのが、研究の動機となる。人々が持つ悪意によって自分自身に及ぶ影響はどのようなものか、そして、悪意はどのようにして生まれるのかを究明しようと試みている。</p> <p>加えて、専攻領域の国際ビジネスと関わらせて、悪意が国際関係に及ぼす影響にまで考察対象を広げている。</p> <p>本論では、社会心理学者の学説をサーベイし、これら研究成果を統合した上で仮説を構築し、学生を対象にアンケート調査を実施し、その集計結果を分析して、仮説検証につなげている。そのうちの1つとなる「接触仮説」は、調査結果から支持された。海外留学・現地生活経験者は、接触に必要な「地位の対等性」「集団間の協力」「共通の目標」「政府や組織からの制度的支援」という条件を満たす一方で、海外渡航経験がない人は外国人と接触する機会に恵まれず、外国人に偏見を持つ傾向が強く見られたからである。</p>
推薦の理由	<p>社会人になるとストレスを強く感じやすく、周囲の人々に悪意を抱く機会が増えると3名の著者が意識して、どのようにすれば悪意に対応できる術を身に付けられるかを発見しようと試みたところに、研究の意義が見出せる。</p> <p>そのため、学術性の高い社会心理学者の研究成果を割と沢山読まれ、学説の中から因果関係を抽出し、仮説として理想的な「理論的仮説」を2つ立てている。アンケート調査への有効回答は674名に達し、膨大な数のデータをEXCELシートに入力する作業を経て、仮説の検証に役立たせている。さらに、検証結果を読み取るために、アンケート結果が先行研究の理論と整合しているかどうかを確かめている。例えば、悪口を言う際に「同調してくれる人」と「聞くだけの人」のいずれを選好するかという質問に対して、悪口への同調を求めるといふ答えが多く見られた。悪口を言うことで同調者グループの結束力を高め、自己開示をすることで仲をより深める人が多いという分析結果は、まさに先行研究と一致している。</p> <p>以上のように、理論的研究と実証的研究が上手く重なり合う論文であるため、卒論の見本としても推薦する次第である。</p>